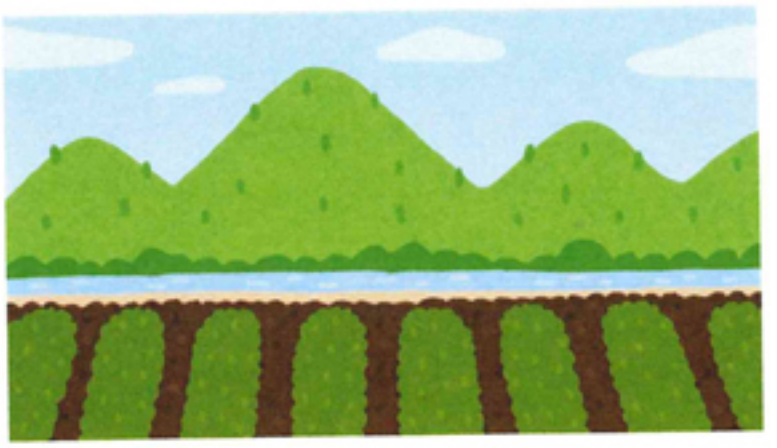
## ねじりはちまき

暑さがだいぶ本格的になってきました。30 度近い日もあります。熱中症には早め早めに気をつけた方が良さそうですね。さて、住まいのお話にちなみ、昔から言い伝えのある家相、風水は今までふんわりと認識しておりましたが、そもそもどのようなものなのかな？と、疑問に思い、調べてみました。知っていくうちに歴史の長い環境学、統計学なのだとわかりました。日々の中ではあまり気にせず過ごしてきましたが、知ってみると奥深いものがあります。まず、風水は中国で生まれ、儒教や道教の流れを汲んで作られたものだそうです。その風水も２つあり、生きている人が住む陽宅風水と、亡くなった方(お墓)の為の陰宅風水が存在し、日本の風水とはまた異なる様式のようです。しかも、日本とは違った点は近隣のお家の風水も邪魔しないように風水を活用するそうです。まさに環境学であり、自然の地形や、気流に逆らわずあらゆる環境と共存していくためのものと深く関心した点です。自分さえ良ければいいという思想ではない部分に、とても興味深い哲学なのだと感じます。これから少しずつ知識を深めていき、ご紹介できる機会があれば、つたない文章ですがお付き合い下さると嬉しいです。

(有)幸田建設



＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

**【会社近況】**

ただいま、本宮市の修繕工事をお世話になっております。気温も上がり熱中症に気をつけながら作業を進めて参ります。

【今月号～チラシを同封させていただきましたので、ぜひご覧ください】

【6月の旬　パプリカ】

ピーマンの一種であり、色が赤や黄ととてもカラフルで肉厚なお野菜です。特に、ビタミンCが豊富で1/2個で1日分だそうです。その他にはカロテン、食物繊維、カリウムが含まれており、食べると栄養価の高いまま摂取できるとの事。疲労回復や免疫力向上に役立つ嬉しい食材ですね。暑さで疲れた体には非常に良い栄養素です。この夏、お手に取ってみてはいかがでしょうか。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【お家の点検】

これからの梅雨時におうちで快適に過ごすために、おうちの点検項目をご紹介いたします。

○窓まわり　　網戸のホコリやカビを取り除く

○雨樋　　枯れ葉やゴミが詰まってないか

○外壁　　ヒビ、欠けなどがないか

○バルコニー　排水溝がゴミで詰まってないか

○室内　　木材が湿っていて、カビのにおいなどがしないか

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

令和7年6月5日発行
＜発行責任者＞幸田久美
有限会社　幸田建設
969-1204　本宮市糠沢字八幡1-1
電話　0243-44-3816

＜後記＞娘が先日、冷蔵庫にふわふわ言葉とちくちく言葉のボードを貼ってくれました。ふわふわは『大好き』『ありがとう』など、ちくちくは『うるさい！』『じゃま！』などです。意識して言葉の選択をしていきたいです。　（ほしの）

夢を見続ける男　NO134

自然・植物と向き合う

今回は何を書こうかなと考えていたところ、「生命進化の歴史に向き合うと、ヒトは謙虚にならざるを得ない」という見出しの記事が眼についた。どんな内容のものか読んでみたところ、日頃自分が考えているところと一致するところや教えられることが多々あったので、その一部を皆さんに紹介したいなという気持ちになった。記事はインタビュー形式で、見識を述べて下さるのは、サイエンスライターで東北大学特任教授の渡辺政隆氏である。

＜二重の意味で人間に恩恵をもたらしてくれる植物＞

・地球上の生物資源（動物、植物、微生物など）の総重量（バイオマス総量）の８０％を占めるのが植物で一番大きく、次が細菌で１５％、動物に至っては０，３６％に満たない。この動物のうち３％を人類が占めているという状況にある。

・人類は１万年前に農業を開始して以来、人口と農業生産を増大させてきたが、一方で、自然の植生を破壊し、植物のバイオマス総量を半減させたとも言われる。

・人間は、どちらかというと動物偏重なところがあり、植物に関しては美しい花や新緑を見ると心が癒されるといった程度で、美的な面や効用的な面にのみ注意を払いがちなところがある。しかし植物は地球環境にとって、とてつもなく重要な存在である。

そもそも私たちの主食であるコメやムギはもちろん、家畜の飼料まで植物に依存しており、そうした植物の活動を支えるのが光合成である。緑の葉が日光を受け、二酸化炭素と水をデンプンやタンパク質などの有機物に変換するこの仕組みがあればこそ、人間は生きていけるわけである。しかも光合成を行う過程で、大気中の二酸化炭素を減らして酸素を増やしてくれる。つまり光合成は、地球温暖化の軽減にも貢献しているわけで、植物は二重の意味で人間に恩恵をもたらしてくれているのである。

＜植物にもっと敬意を！そう叫びたい気持ち＞

・ともすると人間は、自分の見たいものしか見ようとしない。野鳥の写真を撮ろうとする人にとっては、木の枝や葉っぱは邪魔者だったりするが、野鳥にしてみると、樹上の止まり木は、身を隠す場所であると同時に、採食の場所でもある。その意味で、本来植物は動物にとってもなくてはならない運命共同体であるはずだが、人間はついそれを忘れてしまいがちである。

・人間が周囲の環境における植物の存在に注意を払っていない結果として、三つの弊害を招いているといわれる。一つ目は、「生物圏と人間生活における植物の重要性を認識できない」こと、二つ目は、「植物の美的特徴とユニークな生物学的な特徴を評価できない」ということ、三つ目は、「植物よりも動物の方がランクが上という人間中心的な誤解により、植物は顧慮するに値しないという誤った結論に至る」というのである。もちろん植物を愛でる人はたくさんいるが、しかしそれは往々にして、「木を見て森を見ない」ような愛で方だったりする。例えば森の中で、空を見上げたりすると、葉を広げた枝は互いに重ならないようの配置されており、日光を見事に有効活用している光景が見てとれる。そうした科学的な意味を知れば、植物の美しさは一層引き立つはずである。ですから私は、「重要な役割を果たしてくれている植物にもっと敬意を！」と叫びたい気持ちなのである。

＜植物の驚くべき生存戦略＞

・植物にも動物のように自他識別の能力があることが分かってきたのである。その能力については蔓（つる）植物のヤブガラシで実証されている。つまりヤブガラシを使って、ヤブガラシの茎と他の個体の茎に巻きひげが巻き付く程度の違いを調べた結果、自分の茎には５０％の割合でしか巻き付かなかったのに対し、他の個体には８０％の割合で巻き付い

た。しかも巻き付き方にも差が出て、しっかり巻き付いたのは、自分に対しては１０％弱だったのに対し、他の個体には４０％であった。また、葉に多くのシュウ酸を含んでいるヤブガラシの巻きひげは、同じシュウ酸を含んでいる個体には巻き付かないことも分かってきている。この自他識別の能力は、蔓植物に組み込まれている適応能力の一つである。蔓植物は隣人（別個体）を圧倒して太陽光を独占するために、このような生存戦略を身につけたのだろうと思われる。ウリ科のゴーヤやキュウリでも同じように自他識別が行われていることが確認されている。

＜スザンヌ・シマード博士の「樹木が会話する」という研究＞
・カナダの大学教授であるスザンヌ・シマード博士によって、地中の菌糸ネットワークによる樹木間の相互扶助によって、森の多様性が維持されていることが実証され、これを彼女は「樹木は会話を交わしている」と表現したのである。
・シマード博士の実証実験により、たくさんの日光を浴びてたくさんの糖を生産したアメリカシラカンバから、日当たりの悪いベイマツに対して、光合成ができなかった割合に応じた量の糖が提供されていることが分かったのである。その逆もあって、秋になり、葉を落として光合成を止めたアメリカシラカンバに、針葉樹のベイマツが糖を供給しているのである。　　(注)菌糸ネットワークを形成している菌は、「外生菌根菌」という。

＜人間は地球とともに生きている、それを決して忘れてはいけない＞
・地球が誕生したのは、今から４６億年前、そして生命が誕生したのは、恐らく３６～３８億年前と言われている。それから紆余曲折を経て、「カンブリア紀の爆発」で、堅い殻を持つ生物が突如爆発的に登場したのが５億４千年ほど前で、陸上生物が出現したのは４億数千万年前のことである。そして四つ足の脊髄動物が上陸したのは３億７千年前、恐竜と原始的な哺乳類が出現したのが２億３千年目のことである。その後もいろいろあって、最初の人類（猿人）が登場したのが７百万年前で、現在のヒトにあたるホモ・サピエンスが登場したのは、たかだか２０～３０万年前のことである。要するに地球の歴史の中で、生命、それも人間に関係する出来事が起こったのは、すべてつい最近のことなのである。
・私たち人類をはじめとした生命体が、そのシステムを複雑化させるにあたっては、初期の助走にとんでもない長い時間が必要だったと思うが、その助走は決して生命体の一人芝居だったわけではなく、「地球というゆりかご」との二人三脚だったはずである。そう考えると、「私たちは地球とともに生きている」ということを決して忘れてはならないと思う。

今回はこれで終る。私たち人間は「地球の一員」なんですね。

# 吾妻連峰一切経山、那須連峰茶臼岳

【今回登った山の概要】（百：日本百名山、◎：日本二百名山、○：日本三百名山、カッコ内の数字は標高。上、2段目、下、左、右などは写真の位置）

・一切経山（◎いっさいきょうざん、吾妻連峰の一座 1949m、福島市と猪苗代町との境）

・茶臼岳（百、那須連峰の一座、主峰、1915m。最高峰は三本槍岳 1917m）

**一切経山　5月3日（土）**

いわき市の山友Kさんからのお誘いで登った。

本宮の自宅に寄ってくれて道の駅土湯を経由し8時のゲートの開放を待った。風が強く気温も低い。行けるとこまで行こうと話していたら、高度を上げるにつれて天気が良くなり青空になってきた。ラッキーだ。兎平の駐車場（無料）を8：45出発（上左）。木道を通り登山口に取り付く（上右）。右が一切経山左が東吾妻山（1975m）。

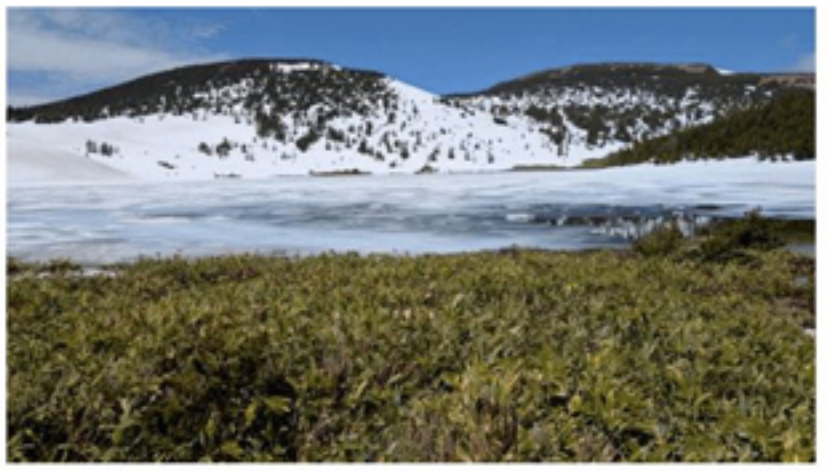
Kさんは6本爪の軽アイゼン、自分は11本爪のチエーンスパイクを着ける。多くの人が登っている（2段目左）。ワンちゃんとネコさんと登っている家族がいて人気を集めていた（2段目右）。

酸ヶ平（すがだいら）避難小屋の先まで雪原を登り登山道に復帰する。振り返ると東吾妻山の右下に一部結氷した鎌沼が見えている（下左）。吾妻小富士が見えてきた（下右）。

山頂付近は雪がない。11：05 山頂着、記念写真（上右）。
魔女の瞳（五色沼）の左上の家形山から西に延びる吾妻連峰は奥深い（上左）。

11:40 下山開始、鎌沼を目指す。酸ヶ平にも雪はない（2 段目左）。
鎌沼とＫさん（2 段目右）。

鎌沼を挟んで蓬莱山の対面で昼食にする。最高のロケーションだ（3 段目左）。頭が紺色くちばしが黄色のカルガモ（？）の親子が泳いでいた、（3 段目右）。コーヒーをごちそうになる。格別だ。



13:30 下山開始。噴煙がまっすぐ上がっている。

14：30 駐車場着。Ｋさんと一緒のゴールデンウイークの一切経山山行を無事終える。

ラッキーな一日だった。

**茶臼岳**

登山口は幾つかあり、今回は栃木県那須塩原市板室の沼ッ原登山口（1230m）から登る。白笹山（しらささやま 1719m）と南月山（みなみがっさん、1776m）を経由するコースで、2020 年 11 月下旬に登っている。

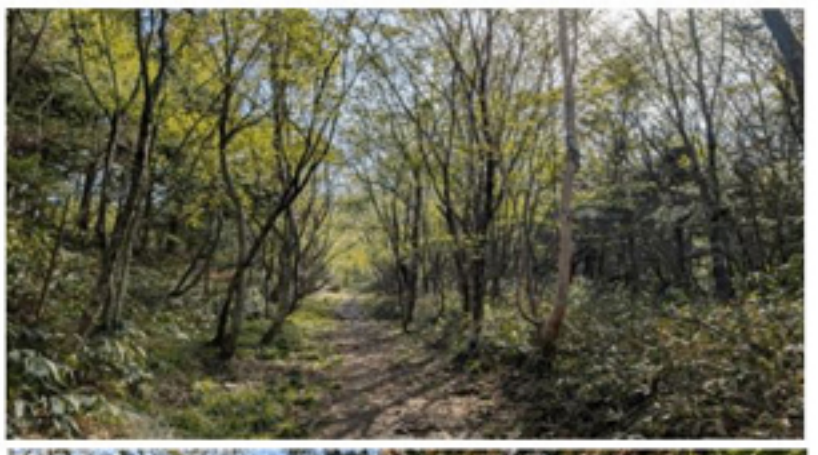
前回は初冬の時期。南月山に至る稜線の樹氷は桜の花が咲いたようだった。茶臼岳に近づくにつれてフェリーのエンジン音のように腹に響くマグマの動きが不気味だった。茶臼岳は粛とした冷気に包まれて群青の空を背景に鎮座していた。いつか春に登りたいと思っていて、今回実現した。

**5 月 20 日（火）**

本宮の自宅を 5 時半出発。東北道那須 IC を降り沼ッ原園地駐車場に 7 時前に着く。快晴だが風がある。広い駐車場には、5～6 台、トイレ使用は 8：30 から（上 2 枚）。

先行出発する二人の熟年男性は、白笹山と南月山を経由して牛ヶ首まで行き、茶臼岳には登らずに姥ヶ平経由で周回するとのこと。

今夏の鋸岳（◎2685m）踏破のため、ザックを重くし 7：20 出発する。気持ちの良い新緑の道をゆっくり進む（2 段目左）。白笹山の名前の通り、笹山だ。



展望はない。

初めはそんなに急な所もなく、岩の転がる涸れ沢や鉄パイプの橋を渡ったり、倒木を迂回する（下）。

木の根と岩の急登もある（次頁上左）。

木の根のスミレをよけて通る（上右）。

ふと見上げたらシャクナゲが咲いていた、ハットする（2段目左）。左下方には調整池が見え、灌漑期で水位が下がっている（2段目右）。

風が強くなりカッパを着る。

9：20 白笹山山頂の標識のある所に着くが灌木に囲まれていて山頂の感じではない（3段目左）。休憩する。若者のペアが追い越していく。

一旦下って鞍部になり南月山に至る稜線上を登り返す。左奥が茶臼岳（下右）。樹林が混んでいる所には雪が残っている（下）。

鞍部に桜が咲いていた（次頁上左）。

茶臼岳はまだまだ遠い(2段目右)。左奥は那須連峰最高峰三本槍岳。

日の出平を過ぎると気象庁火山観測局の施設がある(2段目左)。

2020年11月の時に感じたフェリーのエンジン音のような腹に響く微動は感じられない。噴煙も少ない。桜の花が咲いていた(3段目右)。

10：20、神社の祠のある南月山山頂に着く。記念写真（上右)。

牛ヶ首11：25着（3段目左)。ここまでは前回と同じコース。前回はここから左回りで茶臼岳山頂を目指したが、今回は距離が少し長い右回りのコース、ロープウエイ山頂駅の方に向かい山頂を目指す。初めてだ。

ロープウエイ利用の人が大勢登ってくる（下)。ここから山頂を目指す。

12：20、「大岩」下の岩場を歩いていたら爆音を響かせてヘリコプターが飛んできて旋回を始める。ホバリングして黒いものが下りてきた。救急隊員の降

下らしい（上左）。

地上からも隊員が登って来て、「もう少しで救助活動が終わるので、あまり近づかないでください。何があるか分からないので。」と指示された（2 段目）。那須地区消防隊の出動だった。

要救助者が隊員とともにヘリに収容されて飛んで行った。・・・詳細は不明。

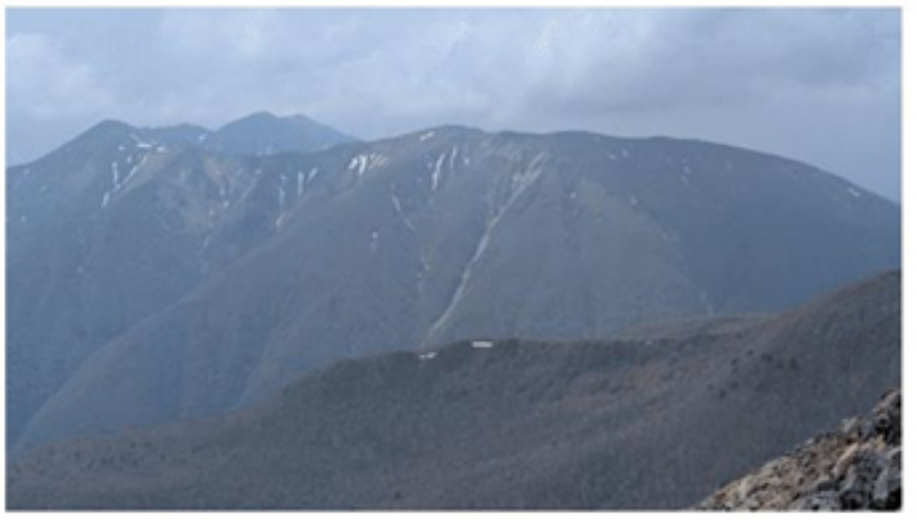
静かになった岩場を登って行くと、山頂部から下りてくる中学生（?）の集団が見えてきた。ロープウエイ駅に向かうのだろう（3 段目左）。
鳥居の先が山頂（3 段目右）。

13：05 山頂の那須岳神社着（4 段目）。昼食。沼ッ原から 5 時間 45 分、牛ヶ首から 1 時間半以上かかった。数人の先行者がいた。

山頂からの眺め、北の方角、左奥が三本槍岳（下）。

北西方面（次頁上）、裏那須と呼ばれる、写真右端の下、大峠から左に向かって流石山（1813m）、三倉山・大倉山（1885

m、1888m）の連なり（上）。



南側には自分が辿った南月山や白笹山が、南東側には那須町や黒磯の市街地が眼下に見えている。食事し 20 分ほど休んで下山にかかる。

朝日岳（1896m）の鋭鋒がかっこいい（2 段目左）。赤い屋根の峰の茶屋避難小屋が見えてきた（2 段目右）。

硫黄鉱山跡の分岐を避難小屋と反対の左に進み牛ヶ首を目指す（3 段目左）。

茶臼岳山頂部の裏側（北側）（3 段目右）。

無間地獄の噴煙は殆ど収まっているようだ（下左）。

姥ヶ坂分岐から姥ヶ平に向けて下って行く（下右）。

姥ヶ平からの山頂部(上)。紅葉の時季、特に赤がきれいだと聞いている。

15:15、少し休み水分補給し、三斗小屋と沼ッ原への分岐を左に進み、小さなアップダウンを繰り返しながら下って行く。ザックの肩のところが痛くなってきた。この程度の重さ（11 kg位）で痛くなるのはパッキングの仕方に問題があるのだろう。今後の課題だ。

駐車場と沼ッ原への分岐を右に沼ッ原へ向かってみる。
湿原をニホンジカの食害から守る「食害防止ネット」が設置されていた（下左)。
木道が整備されている（下右)。

湿原の散策は別の機会にゆっくりと行うことにし、駐車場へ登り返した。
17：40 駐車場着。約 10 時間の茶臼岳山行を無事終える。疲労困憊。

２０２５年６月　ＮＯ１３９　アンチ・エイジング　山旅遊人